

酪農宮崎

令和7年8月31日 印刷
令和7年9月 1日 発行

編集人:有馬 慎吾
発行所:宮崎市霧島1丁目1番地1
宮崎県農業協同組合
電話(0985)31-2100
<https://miyazaki.mz-ja.or.jp>
印刷所:宮崎市大字赤江字飛江田931
宮崎紙工印刷株式会社
電話(代)78-2324

みやざき産牛乳をみんなで飲もう!!
毎月1日は牛乳の日!

NO.646
2025年9月



えびの市納涼夏祭り

9月号目次

酪農情勢報告	1
えびの市納涼夏祭り/表紙募集	2
口蹄疫終息15周年を迎えての意見交換会	3~4
酪農経営支援事業実績	5~6
農大通信Vol.14	7
ミルクラン	8
農学部ナンノ教授のひとりごと	9

全酪広告	10
全農広告	裏表紙



MILK UP!
プロジェクト



JAみやざきHP

酪農情勢報告

1. 生乳生産動向

令和7年8月19日現在

指定団体	7月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
北海道	338,076	102.6	1,372,712	102.7
東北	37,176	101.2	155,747	100.8
関東	82,072	100.4	352,632	100.2
北陸	5,110	98.2	22,099	98.0
東海	22,920	99.3	98,850	99.0
近畿	10,858	98.7	47,356	99.2
中国	22,600	99.1	98,329	99.7
四国	8,069	102.2	34,400	100.8
九州	42,409	99.1	184,098	98.2
(内、宮崎)	5,382	102.0	23,071	98.9
都府県	231,213	100.0	993,510	99.7
合計	569,288	101.5	2,366,222	101.4

2. 販売状況

令和7年8月19日現在

用途	区分	7月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
飲用牛乳	全国	253,268	102.8	987,846	99.7
	九州	30,389	99.2	127,548	97.9
はっ酵乳等	全国	37,385	98.9	145,148	99.1
	九州	7,559	95.8	29,048	97.5
特定乳製品	全国	135,979	104.3	651,579	106.1
	九州	2,307	110.2	18,405	100.9
生クリーム	全国	108,769	97.3	431,271	99.7
	九州	2,059	99.1	8,758	99.5
チーズ	全国	33,888	98.4	150,377	100.3
	九州	96	100.3	339	92.5
合計	全国	569,289	101.5	2,366,221	101.4
	九州	42,410	99.1	184,098	98.2

(小数点以下の四捨五入等で合計が一致しないことがあります)

3. 生乳出荷量別生産者戸数 7月

生乳出荷量	戸数
100 t 以上	6戸
80 t 以上 ～ 100 t 未満	戸
60 t 以上 ～ 80 t 未満	4戸
40 t 以上 ～ 60 t 未満	26戸
20 t 以上 ～ 40 t 未満	66戸
10 t 以上 ～ 20 t 未満	41戸
10 t 未満	17戸
合計	160戸
最高出荷量	568t/月
平均出荷量	34t/月

4. トピックス

第16回全日本ホルスタイン共進会へ始動!!

8月上旬に九州管内にて発生しました線状降水帯の被害等により被災された方々、被害を受けた農業及び畜産関係者の皆様に対しまして、衷心よりお見舞い申し上げます。今年の夏は、異常気象により猛暑日・酷暑日が多く、残暑も厳しく長引くかと思われませんが「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉通り、秋分の日以降は、幾分か涼しくなることを切に願っている今日この頃です。また、夏の疲れが出やすい時期でもありますので、ご自身の体調管理と乳牛のケアの方も引き続き、よろしく願います。先述したように今夏は、太平洋高気圧が大きく張り出し、海面温度の上昇により大気が不安定な状態になり、台風や豪雨等の急速な発生・発達に注視しつつ、大きな被害とならないように引き続き、万全な備えをお願いいたします。

Jミルクが8月に公表しました今年度の生乳需給見通しにつきまして、生乳生産は、生産意欲の高まりにより北海道が2年連続の増産(前年比100.5%)、離農加速が進む都府県は4年連続の減産(同98.7%)で全国的には、2年振りの減産(同99.7%)の見通しであり、9月の需要期には都府県での生乳供給の逼迫により道外移出量が最大となる見込みとなっているようです。また、6月からの加工向け乳価の値上げ、8月からの飲用向け乳価の値上げに係る牛乳・乳製品の値上げにより末端消費の鈍化・減退が懸念され、牛乳・乳製品の需要拡大と生乳生産基盤の維持・強化の取組みが重要となります。また、バター・脱脂粉乳の需給ギャップが依然として続いており、今年度末の脱脂粉乳在庫が約8万トン(前年差3万トン増)となり、積み増しとなる予測となっております。

先月8月27日、本県における口蹄疫の終息宣言から15年の節目を迎えました。アジアを中心とする近隣諸国では未だ発生しており、近年ではアメリカにおける乳牛への鳥インフルエンザ感染や国内でも牛感染症ランピースキン病や豚熱等が発生し、本県においても野生のイノシシでの豚熱感染が発生・確認され、家畜防疫対策等の対応に予断を許さない状況であります。ウィルス感染拡大は、人・モノ・動物等何かしらを媒介して広まっています。今一度、あの時を思い出し、我々を含め、畜産関係者一丸となって、家畜伝染病の予防を徹底しましょう。

我が国の乳牛改良増殖の推進を目的に「第16回全日本ホルスタイン共進会」が10月25・26日に北海道安平町で開催されますが、宮崎県予選会を9月23日の秋分の日(日)に都城家畜市場で開催いたします。前回の第15回大会は、本県での開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となり、残念な思いをした分、10年振りの本大会開催は、感慨深い思いでいっぱいです。予選・本戦まで酪農家皆様・関係者皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

—唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である—

酪農課 加藤 喜博

牛乳を無料配布し消費拡大を呼びかけ

8月15日、道の駅えびので行われたえびの市納涼夏祭りにて、来場された方へ県産牛乳の無料配布を行い牛乳消費拡大を行いました。

飼料代高騰などで酪農家の経営が苦しい中、消費拡大につなげようと企画。同JAの職員が「牛乳をぜひ飲んでください」など行き交う人に声をかけ、200ミリリットルのLL牛乳を手渡し、用意した312パックは1時間ほどでなくなりました。

今回の牛乳消費拡大実施に伴い牛乳を提供いただいたJAみやざき えびの市地区本部酪農部会の坂下純二部会長は「少しでも多くの方に安全安心な牛乳をたくさん飲んでほしい」と話しました。



『酪農宮崎』表紙写真大募集!!

毎月掲載しています「酪農宮崎」表紙写真ですが、あなたの撮った写真を掲載してみませんか？

酪農において「おもしろい写真が撮れた!」や「キレイな写真を撮った」、「子供や自分が描いた絵がある」、「牧場メンバーの写真を紹介したい」など、様々なことがあると思います。それを酪農宮崎の表紙に応募してみませんか？

インスタだけでなく、酪農宮崎でも共有してみましょう。

不定期の採用となりますが、採用者には景品をプレゼントいたします!

たくさんのご応募お待ちしておりますま〜す♪

【申込先】

地区本部の酪農担当部署、JAみやざき本店連酪農課
(Tel:0985-31-2128 Fax:0985-31-5765)まで!



「口蹄疫終息15年」を迎えての意見交換会

～15年前の記憶と教訓、想いを次世代(未来)へ繋ぐ～

宮崎県 畜産振興課

本県で牛や豚など297,808頭が犠牲となった口蹄疫の終息から15年が経ちました。

終息宣言日から15年となる8月27日(水)に、宮崎県庁の講堂で「口蹄疫終息15年を迎えての意見交換会」を開催しました。

意見交換会には、口蹄疫を経験した生産者3名、県内で畜産を学ぶ高校・大学の学生12名及び県知事・県議会副議長・JAみやざき副組合長の総勢18名が出席しました。

意見交換会の模様は、オンラインで配信し、農林水産省や畜産関係団体の方々をはじめ、家畜伝染病発生時に御協力いただいている防疫協定団体の皆様等、約80箇所、300名以上の方に視聴いただきました。

会の冒頭で、口蹄疫発生当時の記録をまとめた映像を視聴し、15年前の戦いの日々を振り返りました。

河野知事からは、「この節目の年に、県内の野生イノシシにおける豚熱感染事例が確認されており、改めて家畜防疫について気を引き締めて、この宮崎から日本の畜産を守る取組を全国に向けて発信をしていく必要がある。当時の思いを共有し、将来に繋いでいける意見交換会にしたい。」と挨拶がありました。

また、3名の生産者からは、今もなお胸に残る当時の苦しみや、それを糧に進んできた今日までの取組をお話いただきました。

意見交換会では、畜産を学ぶ学生がそれぞれ家畜防疫の重要性や将来に向けたビジョンについて発表し、農家からアドバイスもありました。会の最後には、日高副議長や坂下副組合長から学生に向けた激励の言葉があり、河野知事も「継承と前進」をキーワードに今後の畜産を進める大きな力になって欲しいという言葉で締められました。

意見交換会出席者名簿

所属等	役職、学科名等	氏 名
宮崎県	知事	河野 俊嗣
宮崎県議会	副議長	日高 陽一
宮崎県農業協同組合	代表理事副組合長	坂下 栄次
肉用牛農家		篠原 寿
株式会社 本部農場	代表取締役	本部 博久
有限会社 尾鈴ミート	代表取締役	遠藤 太郎
都城農業高等学校	畜産科 3年	谷口 徠希
都城農業高等学校	畜産科 3年	平川 将
都城農業高等学校	畜産科 3年	山元 杏里
小林秀峰高等学校	農業科 2年	古川 詠恵
高鍋農業高等学校	畜産科学科 3年	高須 煌聖
高鍋農業高等学校	畜産科学科 3年	一色 惺瑛
高鍋農業高等学校	畜産科学科 3年	尾前 幸輝
高千穂高等学校	生産流通科 3年	橋本 翔
県立農業大学校	畜産学科 1年	佐熊 安莉
県立農業大学校	畜産学科 2年	渡邊 楓太
宮崎大学	畜産草地科学科 3年	櫻川 美咲
宮崎大学	獣医学科 1年	久保田 美空



主に酪農関係の方々の意見を要約して以下に紹介します。



新富町で酪農を営む 株式会社本部農場 本部 博久さん

平成22年に口蹄疫が発生した当時、10年くらい前にも口蹄疫は発生していたので、その時のようにすぐ終わるのだろうと思っていました。しかし、口蹄疫に打ち勝つことは出来ず、我が家では122頭の牛を処分しました。殺処分の時に、うちの年長さんの女の子が獣医さんの前で、「殺しちゃダメ」と言って手を広げて立ち塞がったのを今でも覚えています。その経験をしてからは、牛が病気になって治療するよりも、まずは牛を病気にかからせないように、ワクチンなどを使って牛が快適に生活できる環境作りに取り組んでいます。

都城農業高等学校 畜産科(酪農) 3年 平川 将さん

実家が酪農家で、口蹄疫発生当時は殺処分対象にはならなかったものの、畜産農家への差別が広がったと聞いています。自分の飼養する牛が疑われること、またたくさんの牛が犠牲になったことをとても悲しく感じ、もう少し小さな被害で抑えられなかったのかなとも思いましたが、宮崎県だけで終息させることができたと聞き、対応の早さをとてもすごいと思いました。これから家畜防疫を勉強して、口蹄疫などの疾病などに感染する牛を少しでも少なくして、牛を第一に考えるような酪農家になりたいと考えています。



高鍋農業高等学校 畜産科学科(酪農) 3年 一色 惺瑛さん

祖父が営む和牛繁殖を小さいころから手伝っていて、口蹄疫の話も聞いていたので、もう二度と発生して欲しくないものだと思います。現在は、防疫管理として、まず毎回搾乳後に消毒槽をきれいにすること、ディッピングの徹底、牛床をいつでもきれいな状態にすることを心がけ、体調不良時にできるだけ早期発見して治してあげることを意識して飼養管理を行っています。自分がこれから手伝いや、もっとその先の経営をしていく中で、口蹄疫や大きな感染に備えて防疫をしっかり行い、これから宮崎の農業の発展を目標に、もっと上に行けるように日々の家畜の飼養管理をしていきたいと思っています。

宮崎大学 獣医学科 1年 久保田 美空さん

口蹄疫発生当時はまだ幼く、初めて口蹄疫のことを知ったのは中学生でしたが、今回、映像や農家さんのお話を聞いて、口蹄疫の蔓延を食い止めるために尽力してくださった方々の苦悩や取り組みを鮮明に知ることができました。獣医学を学びながら、家畜伝染病をより効果的に防ぐ方法に焦点を当てて研究に取り組みたいと考えています。また、まだ構想段階ですが、畜産物の安全性を保障しながら畜産業に再生医療を生かしていけないかという研究をしたいと考えています。宮崎県の畜産業は輸出など(世界的にも)大きな役割を果たしていると考えており、宮崎県の畜産業を守ることはとても大きな意義があると感じておりますので、大学卒業後は、宮崎県で獣医師として働きながら、宮崎県の畜産業を守っていけるような仕事をし、将来その最前線で活躍できるよう尽力していきたいです。



今回の意見交換会の模様は9月3日～9月30日の
約1ヵ月間、宮崎県のホームページで公開しております。
(右のQRコードから確認できます)



酪農経営の簡易分析結果について

(酪農経営支援事業 分析期間：令和6年1月～12月)

公益社団法人宮崎県畜産協会 経営支援部

1 実績の概要

事業参加者49戸のうち、酪農を主体とする26戸を対象とした分析結果を報告します。

(1) 経産牛1頭当たりの所得

経産牛1頭当たりの所得は70千円で、前年から約2千円減少しました。

経産牛1頭当たりの収入 1,490千円 (前年比98%、24千円減)

経産牛1頭当たりの費用 1,420千円

(前年比98%、22千円減、家族労働費は除く)

○所得 70千円 (前年比97%、2千円減)

(2) 経産牛1頭当たりの出荷乳量

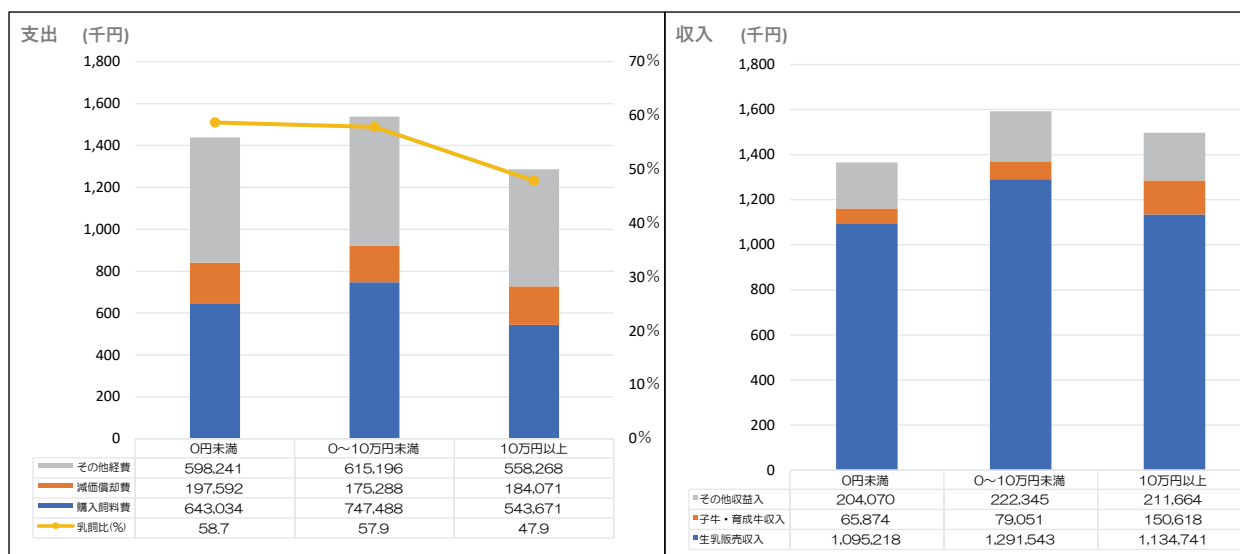
経産牛1頭当たりの出荷乳量は8,351kgで、前年から約89kg減少しました。

経産牛1頭当たりの出荷乳量 8,351kg (前年比99%、89kg減)

経産牛1頭当たりの生乳販売収入 1,177千円 (前年比103%、37千円増)

2 経産牛1頭当たりの所得階層別成績

経産牛1頭当たりの所得階層別割合は所得0円未満が30.8%、0円以上10万円未満は34.6%、10万円以上が34.6%でした。以下は所得階層別の収入と支出の構成グラフです。



【数値から見る高所得経営の特徴】

- ・生乳販売だけでなく、子牛・育成牛販売や奨励金等のその他収入が多い。
- ・生産コストが抑えられている(乳飼比が低く、資材費等の経費が抑えられている)。

3 分娩間隔別の成績

分娩間隔が短い経営は、発情発見効率が高く、初回授精日数が短い傾向があります。また、分娩間隔が長くなると、牛群の平均搾乳日数も長くなり、低泌乳期の牛の割合が増加することで、牛群全体の乳量が減少します。平均搾乳日数が160日を超えた場合、1日1頭当たり約80gの乳量減少が見込まれます。(乳量8,000kg台の牛群の場合)

【分娩間隔を短縮するために】

- ・分娩後の初回授精日数の短縮(目標80日)
- ・発情発見効率の向上(初回又は次回発情を見逃さない: 目標80%以上)

表 1 分娩間隔別の繁殖項目平均値

No.	区分	単位	平均	分娩間隔区分		
				14 ヶ月未満	14～15 ヶ月	15 ヶ月以上
1	集計件数	件	26	6	9	11
2	経産牛頭数	頭	43.1	56.4	47.5	32.3
3	出荷乳量	kg・頭	8,351	8,665	8,490	8,066
4	搾乳日数	日	212	181	200	239
5	授精回数	回	2.4	2.3	2.4	2.4
6	初回授精日数	日	107	80	96	130
7	空胎日数	日	179	127	159	224
8	発情発見効率	%	53.3	70.0	60.0	44.0
9	産次	産	2.6	2.7	2.3	2.7

表 2 経産牛 1 頭当たり経営収支及び生産技術の状況（家族労働費を除く）

区分		単位	No.	年次別			所得階層別		
				R5	R6	増減	0 未満	0～10 万 未満	10 万 以上
集計件数		件	1	24	26	2	8	9	9
経産牛常時飼養頭数		頭	2	42.1	43.1	1	45.7	42.3	41.5
収入	生乳販売収入	千円	3	1,140	1,177	37	1,095	1,292	1,135
	子牛育成牛販売収入	千円	4	107	100	▲7	66	79	151
	その他（営業外含む）	千円	5	267	213	▲54	204	222	212
	収入計	千円	6	1,514	1,490	▲24	1,365	1,593	1,497
費用	購入飼料費	千円	7	666	645	▲21	643	747	544
	乳飼比（7÷3）	%	8	58.4	54.8	▲4	58.7	57.9	47.9
	減価償却費	千円	9	198	185	▲13	198	175	184
	診療・医薬品費	千円	10	64	62	▲2	71	50	66
	その他	千円	11	339	328	▲11	303	388	289
	生産費計	千円	12	1,268	1,220	▲48	1,214	1,361	1,083
	売上原価 （育成経費等差引）	千円	13	1,141	1,102	▲39	1,107	1,222	977
	販売経費・営業外費用	千円	14	300	318	18	332	316	309
	費用計	千円	15	1,442	1,420	▲22	1,439	1,538	1,286
収益	所得額（6-13-14）	千円	16	72	70	▲2	-74	55	211
	所得率（16÷6） ※営業外含む	%	17	4.8	4.7	▲0.1	-5.4	3.5	14.1
生産技術	出荷乳量	kg	18	8,440	8,351	▲89	7,811	9,162	8,019
	平均乳価	円	19	135.0	140.9	6	140.1	140.9	141.5
	分娩間隔	日	20	448	462	14	472	438	477
	平均乳脂率	%	21	3.98	4.02	0.1	4.04	3.97	4.06
	体細胞数	万/ml	22	19.3	20.4	1	24.0	19.0	18.6

※ 事業加入者につきましては、令和7年7月に令和6年次のまとめ分析帳票を発行しておりますので御活用ください。また、追加加入も随時受付しております。

4 最後に

畜産情勢は、飼料や資材等の高騰により大変厳しい状況が続いており、経営管理の重要度が増しています。

我が家の経営数値の把握・比較・点検を継続して行い、要改善点の早期発見、また経営計画や目標の策定等に役立てましょう。



農大通信 vol.14 ～未来につながるGAP～

皆さんは GAPをご存じでしょうか。ご存じの方にとっては釈迦に説法ではありますが、もちろん、洋服のメーカーではありません。GAPとは“Good Agriculture Practice”の頭文字を取ったもので、農業のより良いあり方を推進する取組やその取組に対する認証制度のことを指します。本校では農学科・畜産学科でそれぞれ GAPに取り組んでおり、畜産学科では2021年12月に JGAPの初回認証を受けて以降、今日に至るまで維持・更新を続けています。



前回の維持審査の様子

写真は実際の審査の様子です。取組当初こそ、職員が中心となって受検しておりましたが、現在は写真に示すように学生自らが受検するスタイルに進化してきました。これには一方的に学びを受け取るだけでなく、自らが考え、農場のことを主体的にとらえる経営観の醸成といった狙いもあります。審査員の質問に対して受け答えをするのは学生農場長を中心とした2年生たちで、1年生はその様子を見ながら、翌年の審査に向けたイメージトレーニングを行っていくのです。

なんといっても本校の GAP教育の特徴は実践的な学習にあります。1年時からそれぞれの専攻の農場・圃場を実践の場として、安全で衛生的かつ高品質な商品の生産につながるための生産管理を行っています。当然、私たち職員も指導を行います。農

場の管理の主体となるのは学生たちです。講義や実習を通じて、どのような手順で作業すれば事故を防ぐことができるのか、事故が起きそうなリスクの高い作業はないか、リスクを低減させるには何を行えばいいかなどを、時には議論しながら一人一人が考える時間を持つためのカリキュラムを構築しています。なお、GAPにおける「事故」とは単に農作業事故を指すものではなく、生産現場で生じるヒューマンエラーやトラブルなどを含めたものであり、これらのリスク評価を行うことは安全な商品の生産や出荷に欠かせない取組となっています。



農業機械の日常点検について学んでいます

最初のGAP関連講義で1年生に対して説明していることではありますが、「GAPとは農業を営む上で生産者が誰でも行う当たり前の事であり、農業を続けていくために必要な取組」です。本校ではGAP教育を通じて、持続可能な未来に向けた農業のあり方を考えられる農業者の育成を図るとともに、本県の農業の未来を担える「人財」育成に力を注いで参ります。



農場管理のあり方を指導しています

酪農宮崎 企画

「この人を知る」ーミルクランナー

小野 有菜

【所属・プロフィール】

所属

NOSAI宮崎
中部家畜診療所

出身 大分県

出身学校 宮崎大学

仕事の概要 家畜の診療

酪農家の皆様へ

牛たちが元気に暮らせるよう尽力します。よろしくお願いします！



杉山 真

【所属・プロフィール】

所属

NOSAI宮崎
北部家畜診療所
西臼杵診療課

出身 大阪府

出身学校 岡山理科大学

仕事の概要 繁殖に関する治療を中心とした診療業務

酪農家の皆様へ

私の勤める地域は酪農家さんの少ない地域ではありますが今後、お世話になることもあると思いますので、よろしくお願いいたします。



平佐田 彩乃

【所属・プロフィール】

所属

NOSAI宮崎
西諸家畜診療所

出身 宮崎県

出身学校 岡山理科大学

仕事の概要 家畜(牛)の診療業務

酪農家の皆様へ

4月からの新人でまだまだ皆さんにご迷惑をかけることもあると思いますが、笑顔に明るくをモットーに頑張ります。よろしくお願いします。



長岡 義人

【所属・プロフィール】

所属

NOSAI宮崎
児湯家畜診療所

出身 静岡県

出身学校 宮崎大学

仕事の概要 座右の銘は「足るを知る」「職住近接」です。牛の診療です。

酪農家の皆様へ

いつも美味しい牛乳をありがとうございます。ホルスタインの柄が好きなので、とても癒されます。お役に立てるように頑張りますので、よろしくお願いします。



農学部 ナンノ教授のひとりごと

酪農公社の思い出

南野 快

M大学に着任して半年後の2012年9月から2019年まで、私は研究室の活動として毎週水曜に学生と共に宮崎県酪農公社御池農場を訪問していた。約340回(往復距離にして4万キロ以上)通った計算である。午前7時半にキャンパスを出発して9時前に到着、管理事務所に挨拶してから作業するのが週一回の日課だった。私達の目的は乳牛と繁殖雌牛における分娩後の子宮疾患に関する研究のための材料採取だったが、同時に定期繁殖検診を実施することで公社の牛群の繁殖成績向上を図った。

管理事務所のすぐ下の駐車場に車を停めて、つなぎに着替えて長靴を履き、目の前の乳牛舎から開始、その日に検査する牛の番号をチェックして当該牛を探し、保定する。そして採血と子宮や卵巣の直腸検査・超音波検査、必要に応じて膣検査、最後に子宮内の細菌学検査、細胞診のための材料を採取して次の個体へ、という段取りだった。繁殖検診として妊娠診断や発情が来ない個体の検査を実施した。最初の牛舎が終わると次に上の乳牛舎、それが終わると肉用牛舎(繁殖雌牛の検査)に向かった。そこに向かって降りて行く際に、2011年の新燃岳噴火で降って積もった灰が屋根の上にたくさん残っていたことを憶えている。

作業が終わると昼前で、場内に設置のサンAの黄色い自販機でジュースを買うのが農場を後にする前のルーチンだった。「愛のスコール500 ml」も「ゲンキ快500 ml」も含めて全て100円だった。さらに、「数字がそろえば、もう一本！」のルーレットキャンペーンもあった。同行学生のジュース代は私が出していたが、ある学生が7777を出した時、「おっ、いいね、その1本はこれから買う予定だった僕がもらうね」と言う暇もなく、その学生が喜んであつという間に2本取った際にはキツネに包まれたような気分になった。一方で、イスラム教徒の留学生在が同行していたラマダンだった際には、昼間に何も飲むことができない彼の前で飲み物を口にするのが憚られたが、「全然気にしないでいいです」と言うのでお言葉に甘えて、しかし彼の目は避けながら遠慮がちに飲んだものだ。これらはすべて今となっては微笑ましい思

い出だ。

酪農公社に通った6年半、多くの貴重な材料とデータを収集することができ、お蔭で学生の卒業論文や大学院生の修士・博士論文、そして学会発表や学術雑誌の原著論文として研究業績を上げることができた。酪農公社の歴代の常務や部長をはじめ、職員・関係者の方々には多大なるご協力を賜った。厚く御礼を申し上げます。この間、定期繁殖検診によって牛群の繁殖成績改善や子宮蓄膿症等の疾患発生率減少を達成することができ、また、本学の感染症診断部門の力も借りて牛伝染性リンパ腫やウイルス性下痢などの感染症の防除も推進できたことで、少しは恩返しできたかもしれない。ただ、その後、コロナ禍等もあり、ここ数年は酪農公社を訪問する機会がなかったことは残念だった。

酪農公社が宮崎県の畜産業の発展に果たした功績は大きく、ここで様々な経験を積んだ関係者がそれぞれの立場で今後も宮崎の畜産と酪農を支えていく力になるだろうと信じている。



写真1: 酪農公社御池農場から見る高千穂峰。(2018年4月撮影)



写真2: 毎週水曜の朝は、この牛舎から検診を開始していた。(2016年10月撮影)

ZENRAKUREN



初乳粉末製品

全酪連の牛用混合飼料

GOOD START

PREMIUM

グッドスタート プレミアム 内容量 250g/袋

免疫グロブリン
70g/袋以上
含有



和牛
にも!

消化・吸収・機能性に優れた各種成分を配合しました!

良質な
初乳粉末

中鎖脂肪酸

ビタミン
ミネラル

乳酸菌
ビフィズス菌

全卵粉末



全国酪農業協同組合連合会

フレーク&ペレット

➤ 乳配M

- CP 17.0%・TDN 72.0%
- ハイキューブ、綿実を多く配合したミックスタイプ



➤ 乳スタンダード

- CP 17.0%・TDN 74.0%
- ローコストでベーシックな搾乳牛用配合飼料



➤ 乳ブレンド18

- CP 18.0%・TDN 74.5%
- 綿実・ビートパルプを多く配合



マッシュタイプ

➤ デイリープレミアムM

- CP 17.0%・TDN 74.5%
- バイパス蛋白配合
- ビタミン・ミネラル強化



➤ パワーSマッシュ

- CP 17.0%・TDN 74.0%
- シンプルな内容で低コストを実現

